

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	岐 阜 県
-------	-------

学校の概要 (平成15年4月現在)

関市立安桜小学校						フロンティア		上出 昭弘	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特学級	計	教員数
学級数	2	3	3	3	2	3	1	17	27人
児童数	80	101	81	89	75	82	2	510	

実践研究の概要

1. 研究主題

「確かな学力」の向上のための指導計画と指導過程の工夫改善

2. 内容と方法

(1) 実施学年・教科

1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	・算数...低学年では単元末に学習内容の習熟に差が出やすく、中・高学年は理解の状況に差が出やすいため ・国語...低・中・高学年の発達段階に応じた個人差に対応するため
算数	算数	算数	算数	算数	算数	
国語	国語	国語	国語	国語	国語	

(2) 年次ごとの計画

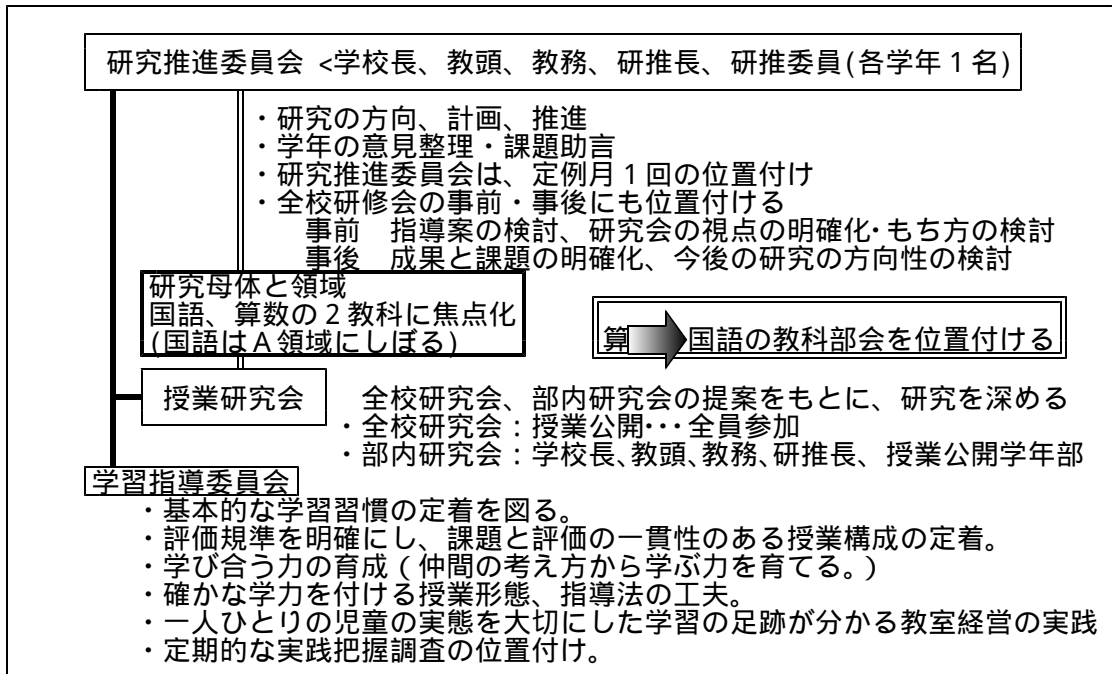
平成14年度	<p>テーマ 「確かな学力」の向上のための指導計画と指導過程の工夫改善 研究の見通し(仮説) ねらいや評価規準、評価方法を明確にした指導計画を作成し、個に応ずる指導過程や指導法を工夫することで、『確かな学力』を向上させることができる。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 『確かな学力』の向上のための指導計画の工夫</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 評価規準、評価方法の明確化</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 発展的な学習、補充的な学習の位置付け</p> <p style="margin-left: 20px;">ウ. 自ら学ぶ過程をふまえた指導内容と学習過程の明確化</p> <p>(2) 『確かな学力』の向上のための指導過程の工夫</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 自ら学び、共に考え、確かめ合う学習活動の工夫と位置付け</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 指導内容に応じた指導形態・方法の工夫</p> <p style="margin-left: 20px;">ウ. 評価を生かした個に応じた指導の工夫</p>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 『確かな学力』の向上のための指導計画と指導過程の工夫改善 研究の見通し ねらいや評価規準、評価方法を明確にした指導計画を作成し、個に応ずる指導過程や指導法を工夫することで、『確かな学力』を向上させることができる。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 「確かな学力」を定着させるための指導計画の改善</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. ねらいと評価規準の明確化</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 少人数指導やTTの効果的な位置付けによる単元の構造化</p> <p>(2) 個の学習状況に応じた指導過程の工夫</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 個の学習状況を把握するための工夫</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 個を鍛え、高めるための指導過程と学習活動の最適化 (少人数指導やTT指導等の学習形態の工夫)</p> <p style="margin-left: 20px;">ウ. 発展的な学習、補充的な学習を図る教材、教具の開発</p>
--------	---

平成16年	<p>テーマ 『確かな学力』の向上のための指導計画と指導過程の工夫改 研究の見通し ねらいや評価規準、評価方法を明確にした指導計画を作成し、個に応ずる指導過程や指導法を工夫することで、『確かな学力』を向上させることができる。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 「確かな学力」を定着させるための指導計画の改善</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. ねらいと評価規準の明確化</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 少人数指導やTTの効果的な位置付けによる単元の構造化</p>
-------	---

度	<p>(2)個の学習状況に応じた指導過程の工夫</p> <p>ア．個を鍛え、高める学習過程の工夫。</p> <p>イ．個の学習状況を把握し、個に応じた指導法の工夫。 (少人数指導やTT等の学習形態の工夫)</p> <p>ウ．発展的な学習、補足的な学習を図る教材、教具の開発</p>
---	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の成果及び課題

1. 研究の成果

低学年部	<p>(1)「確かな学力」を定着させるための指導計画の改善</p> <p>イ・コーナー学習では、二人の教師が担当するコーナーを決め、各コーナーで広めたい姿を共通理解することで、支援や評価を自信をもって行うことができた。</p> <p>(2)個の学習状況に応じた指導過程の工夫</p> <p>ア・個別指導を焦点的に行うには、レディネステストや毎時間の観察などによる学習状況や評価の個票化が効果的であった。</p> <p>イ・各コーナーで取組の時間を区切って交代させる授業の進め方は、活動にめりはりを生み、どのコーナーでも集中して取り組める効果があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が頑張りたいコーナーと教師が「つけたい力」から指定するコーナーについて、各自のワークシートに印をつけることは、児童に課題意識をもたせる上で有効であった。 ・学力と生活力を考慮したペア編制により、活動がしやすくなり、児童相互の学び合いも成立しやすくなった。 <p>ウ・ゲーム化したコーナー学習は、単元終末での習熟を図る学習の場でも、児童を補充学習や発展学習に意欲的に取り組ませることに有効であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーナー学習では、多様な教具を目的に応じて活用することで、学習意欲を更に高めることが可能になった。
中学年部	<p>(1)「確かな学力」を定着させるための指導計画の改善</p> <p>ア・評価規準に応じた「まとめ」や「確かめ問題」を単位時間の終末に位置付けることは一人ひとりの評価をより確かにすることにつながった。</p> <p>イ・授業や学習場面の役割に応じて学習形態を工夫することが学力の定着に有効であった。例えば、単元の導入段階や、知識・理解を重点にする場面ではTT指導、考えを深める場面では、3人程度のグループによる少人数指導、より確かな学力の定着や発展学習の場では自己選択による習熟の程度別指導等が有効であった。</p> <p>(2)個の学習状況に応じた指導過程の工夫</p> <p>ア・毎時の学習状況をできるだけ詳細に把握することは、個に対応した声かけや適</p>

- 切なヒントカードの準備やアドバイスなど、個に応じた指導・援助を素早く行うことにつながった。
- ・毎時間の授業の終末に自己評価を位置付けることは、児童に課題意識をもたせることにつながった。
 - イ・1学期にはペアでの交流を行った。ペア学習は3・4人グループでの学び合いの基礎として、順序立てて話す力や、進んで交流する力を付けることに有効であった。
 - ・2学期以降は、3～4人グループでの学び合い学習に重点を置いた。その際、習熟の程度によるグループ編制をすることで「学び合い」の質を高めることに有効である。
 - ・単元の途中でもグループを編制しなおすなど工夫することで、より個に応ずることができ、学びの質も高まり、学力の定着にも効果がある。
 - ・少人数で指導を行うことで発言回数が増え、自信をもたせることができる。
 - ウ・ワークシートで交流する場合、各グループ毎に移動黒板を準備するなど教具の整備が個々の学力の定着に有効である。
 - ・学級全体で交流する場合は、ワークシートを投影することで、説明側も聞く側に考えを広めることに有効である。

高学年部

(1)「確かな学力」を定着させるための指導計画の改善

- イ・児童が自己選択できる練習問題の準備を行い、T1・T2の役割を分担し指導することで、できる限り個に応じた指導を行うことができる。

(2)個の学習状況に応じた指導過程の工夫

- ア・単元前にレディネステストによる実態把握を行い、一人ひとりの学習状況や評価を個票にして授業に臨むことで、支援の必要な児童に適切なヒントを与えたり、その他の児童にも、個に応じたアドバイスができる。
- イ・本時のねらいに応じて、毎時のワークシート等の実態把握に基づいた均質の小集団での交流を意識的に位置付けることは、個の学力の定着に効果的である。
 - ・自ら考え、学ぶ場を位置付ける学習活動は個を鍛えるのに有効である。
 - ・習熟度の異なる児童を意図的に組み合わせたグループで、「学び合い」活動を位置付けることは、個を鍛え、高めることに有効な学習形態である。
 - ・一人ひとりがめざす姿を明確にもち、毎時間の学習に課題意識をもって取り組むことができるように、教材CDをモデル提示し、討論会や発表会での理想的な話し方をイメージさせることは、意欲化につながる。
 - ・相手意識、場面意識をもたせたりハーサルを行い、意図的に少人数グループで互いにアドバイスしあうことで、自信をもって話すことができる。
- ウ・児童が意欲的に学習に取り組み、個の学習状況に応じて学習を進めることができるワークシートなどの教材開発と工夫を行うことは有効である。

2. 今後の課題

(1)「確かな学力」を定着させるための指導計画の改善

- ア・単元、領域に応じた指導方法を更に工夫し、明確にしていく。
- イ・単元の中で最もつまずきやすい学習内容に焦点を当てて、指導方法や教材開発等の研究をさらに積み重ねていく。
 - ・展開案、単元指導計画の指導・援助の中でのT1・T2の動きや働きかけをより明確にする。
 - ・「児童の思考の流れ」を大切に授業形態、指導方法を更に工夫し改善していく。

(2)個の学習状況に応じた指導過程の工夫

- ア・児童が自己選択する能力をつけていくために、相互評価・自己評価ができる手だてを工夫し改善していく必要がある。
- イ・児童の言葉で発表し、その考えに関わって交流を広めることを充実させる。
 - ・「学び方」「交流の仕方」を身に付けるために、発達段階(低・中・高)に応じたステップを明確にし、系統的な指導方法・練習方法(教師の手だて)を考えていく必要がある。
- ウ・児童の実態に応じた教材・教具を更に開発し、全職員で共有化していく。

学力等把握のための学校としての取組

定期的な単元末学力検査の実施。
 NRT、CRTテストの実施
 単元前のレディネステストによる実態把握（算数）
 毎時間のワークシートや作品からの個票の作成
 朝活動におけるドリル学習による計算・漢字習熟
 毎朝の会、帰りの会、及び授業の開始時での計算習熟テストの継続

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究会、説明会等の開催実績及び開催
 *平成15年8月29日：美濃地区指導法改善研修会
 平成14年度から15年度1学期までの実践発表
 *平成15年11月7日：美濃地区協議会(学力向上フロンティア事業中間発表会)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	<input checked="" type="checkbox"/>	14年度からの継続校	
【学校規模】	6学級以下		7～12学級	
	<input checked="" type="checkbox"/> 13～18学級		19～24学級	
	25学級以上			
【指導体制】	<input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導	<input checked="" type="checkbox"/>	T・Tによる指導	
	一部教科担任制		その他	
【研究教科】	<input checked="" type="checkbox"/> 国語	社会	<input checked="" type="checkbox"/> 算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭科
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	<input checked="" type="checkbox"/> 有		無	